

平成 27 年度 長生園デイサービスセンター事業報告

《概要》

介護保険制度による『通所介護』『介護予防通所介護』事業を「通常規模型」で実施して参りました。

サービス提供時間は 7 時間 15 分（9：15～16：45）を軸に利用者の個別性に合わせて 6 時間 15 分（9：15～15：30）の時間短縮も継続して参りました。

利用状況の傾向としては、7 時間 15 分（7-9 枠）を希望される方は全体の 6 割程度でした。

また、公的外サービスとして介護保険外の利用受入もありました。

公的外サービスを利用される方の傾向としては、限度額を超えてしまう方の経済的負担軽減での利用が最も多く、若干ですが公的外サービス単体での利用もありました。

利用例として、要支援 2→要支援 1 になり当該事業所から利用回数が少なくなった部分を長生園デイの公的外サービスにて補いたいとの依頼でした。

1. 利用者の状況

事業別内訳

( ) 前年度

事業別	実利用者月平均	月間延べ利用者平均	年間延べ利用者数
① 通所介護事業	37 (39)	350.75 (398.3)	4209 (4779)
② 介護予防通所介護事業	11 (11)	67.5 (47.4)	810 (569)
③ 公的外サービス	10 (12)	6.5 (8.8)	78 (105)

介護保険実績推移（過去 3 年比較）

<27 年度>①4209 人+②810 人=5019 人 (前年比：-329 人)

<26 年度>①4779 人+②569 人=5348 人

<25 年度>①4553 人+②723 人=5276 人

時間別内訳

( ) 前年度

利用時間別	6 時間 15 分	7 時間 15 分
① 通所介護事業	1842 (3774)	2367 (1005)
② 介護予防通所介護事業	334 (553)	470 (16)
③ 公的外サービス	15 (51)	63 (54)
合計	2191 (4378)	2906 (1075)

□レクリエーション（担当：入田）

地域の環境にも恵まれており、利用者への移動時の負担も少なく近隣公園等への散策が行えました。

季節を感じて気分転換を図っていただけたと考えます。

日常的に行う活動では全職員で交代制を行う事で、各職員が責任感を持って取り組む事が出来、内容の濃いものになっていると思われます。

計算問題・短歌作成等への取り組みもあり認知症予防にも努めて参りました。

夏祭り、運動会では盛り上がりも良くさらに充実したものにしていきたいと思い、また創作活動にも力を入れて参りました。今後も利用者と共に作成出来るものを提案していきたいと考えています。

### 27年度年間行事内容

月	散策行事	館内行事	毎月実施行事
4月	桜見物	屋外食	短歌教室 (第3土曜)
5月	菖蒲見物	避難訓練	
6月		ジャガイモ堀り	
7月	ドライブ(博物館)・買物		散髪
8月		夏祭り	
9月		敬老行事(舞踊披露)	
10月		運動会	
11月	フローランテ散策	わかば園園児交流	
12月		クリスマス会(フラメンコ・大正琴)	
1月	初詣・マリーナドライブ	大根堀り	
2月	梅園見物		
3月	桜見物		
		<手芸> 手帳カバー・のれん作成 <壁画作成> 干支	



29



□個別機能訓練（担当：落合）

当センターでは「個別機能訓練加算」は算定しておりませんが、各利用者には個別援助計画に沿って個別機能訓練計画書を作成し、看護師・介護職員にて個々のニーズに応じた訓練の実施に努めて参りましたが、訓練の実施時間を午後に設定していた処、職員体制や活動内容の時間配分の不備の他、午後からの活動に対して利用者の疲労訴えもあり訓練の実施結果については不十分であったと考えます。

次年度については訓練実施時間帯の見直し（午前中実施）職員配置の検討を行う事で訓練実施の稼働率を向上したいと考えています。



□地域交流会（担当：児玉）

檜地区社会福祉協議会・中央東檜北包括支援センターの依頼にて、「山崎地区ふれあいサロン」の場所提供及び、デイサービスで企画した夏祭りへの招待や体操・レクリエーション実施の他、看護師による健康チェック（バイタル測定）等を行いました。



□リスクマネジメント（担当：児玉）

27年度に発生した事故の内訳としては以下の通りです。

項目	件数	備考
体調急変	0件	利用者個々の体調による搬送など
負傷事故	14件	事業所内での転倒等（利用者が負傷） 内：3件は在宅における負傷をデイ職員が発見・処置
交通事故	3件	送迎中における物損事故・人身事故等
ヒヤリハット	19件	事故には至らなかったが、負傷事故の危険性があると判断される案件

27年度は17件の利用者に係る事故（急変含む）と19件のヒヤリハットが発生しております。

事故の件数は一昨年より12件多く、ヒヤリハットが2件少なく報告されました。

リスクマネジメント研修やミーティングでの注意喚起を行った他、介護事故・ヒヤリハットの定義（判断基準）について大幅な見直しが行なわれた事も大きな要因と考えます。

重傷（転倒による骨折等）を伴う事故は発生しませんでした。介護中の皮膚剥離等の軽微な負傷報告が複数あり、改めて介護技術の向上が必要と感じられました。

また、打撲痕（内出血痕）等が発見した際には在宅時による負傷の可能性も考えられ、一概に全てが事業所内での負傷扱いとすべきかの判断に迷う事もありました。

※上記の事案についてはご家族への報告を速やかに行う事でトラブルに発展しない様に努めて参りました。

他にも送迎中の交通事故（物損事故扱い）も発生しております。

ヒヤリハット報告の傾向としては歩行状態が不安定な方の一人歩きや入浴中の体の浮き上がり等が目立ちましたが、日頃より注意観察を行っていた事もあり、重大事故を未然に防ぐ事が出来たと考えます。

※ヒヤリハット報告は、職員間の情報共有（利用者のリスクマネジメント）の観点から報告書を作成する様に意識しました。

防災訓練では火災訓練（初期消火・避難訓練）の他、地震・津波を想定した避難訓練を実施しました。

※27年度の津波想定避難訓練では、津波避難所に指定されているシーガイアホテルへの避難を想定しましたが、複数の利用者を短時間で避難誘導する事の困難さを再確認した次第です。

現状考えられる最善の避難経路としてはデイサービス西側にある江田神社駐車場を一時避難場所とし、その後の第二避難所（近間病院等）への移動が適切と考えます。

しかし、入所施設（母体施設）と川を隔てての立地条件もあり、非常時には分断される可能性がある事も踏まえて、更なる避難計画等の調整が必要と考えます。